

入学試験問題の講評 日本史（前期日程）

●出題のねらいと傾向

出題にあたり、教科書に掲載されている重要な事柄や、基本的な事実関係や出来事の流れが理解できているかを確認する問題作成を心掛けています。出題の形式は、長文を読む中で解いていくものや、史料を読んで考えるもの、正誤判定など、多様な形式の問題を取り入れています。

問題は、大問が3問あります。1、2はやや長めの文章を読んで解答する問題で、文中の空欄に当てはまる語句を記述や、選択肢から選んで解答する形式です。文中の下線に関する設問に答える問題もあります。3は、史料の読解を必要とする問題や、正誤を判定する問題となっており、単に暗記だけでは解答できない問題形式になっています。

なお設問によってはやや難しいものや、易しいものもありますが、平均すると全体で正答率が60%前後となるような出題を心掛けています。

●解答内容について(結果を振り返って)

問題は、一問一答の形にならないようにしています。例えば、**202**の大問1の文章Iでは、「六分一殿」と呼ばれる一族の（ 1 ）らを討伐するなど、という問題があります。「六分一殿」と呼ばれたのは何氏か」という細かい知識を問うものではありません。文脈から、花の御所を作った将軍は足利義満であり、義満の時代に討伐された守護は何氏か、と考えて回答することをねらいとしています。空欄の前後のみを読むのではなく、前後の文章の文脈から考えて下さい。

205大問1[C]は、承久の乱後に設置された役職を問う問題です。承久の乱が幕府と朝廷の間に起こった戦乱であり、乱後に京都の支配を強化したこと、北条氏一門が就く役職であることを念頭に置けば、京都守護と六波羅探題とで迷うことはないと思います。

主要な事件や事柄について、時代の流れや背景を整理して理解すると良いでしょう。

史料問題は、一見すると難しく感じるかも知れませんが、文中に重要なキーワードが入っています。**204**大問3の史料では、「政権武門に移りてより」とあることから、武家政権が出来た鎌倉時代以降の話だと分かります。「二百余年子孫相受く」とあるので、200

年以上続いた武家政権は何かと考えれば、対象となる幕府を絞り込むことが出来ます。史料問題では、教科書や史料集に載っていない史料が出題される事がありますが、必ずキーワードが含まれているので、丁寧に史料を読むようにして下さい。

記述問題では、正確な字で書くようにして下さい。吉田茂の「茂」では多くの誤記がありました。くさかんむりの下の部分は「戊」ですが、「戊」「成」になっているものがみられました。『東海道中膝栗毛』の「栗」が「粟」になっている解答もかなりありました。実際に字を書く機会が少なくなっているかも知れませんが、重要な用語については繰り返し書いて覚えるようにして下さい。なお書き殴ったような字や、消しゴムで消さずに二度書きした字、続け字も見られました。上手な字である必要はありませんが、点画をしっかりと書き、丁寧な字を書くように心掛けて下さい。

●アドバイス(勉強の方法等)

・教科書の重要な事件や出来事については、単に用語を覚えるのではなく、関わった人物の人間関係を整理したり、意見の対立点を比較することや、出来事のターニングポイントは何かなど、自分なりにまとめをして下さい。

・教科書や資料集の年表を活用して下さい。単に年号を暗記するのではなく、時代の流れや背景を考えて整理することは大切です。

・史料集を活用して下さい。史料の中にあるキーワードを探す癖をつけたり、時代ごとの用語の違いを意識できるようになりましょう。

・地図や図表にも目配りをして下さい。第二次世界大戦期の地図を見ると、当時の戦闘機が飛べる距離がどれくらいかを考えると、随分見方が変わってきます。

・現代のニュースも歴史を考えるヒントが多く含まれています。新たな遺跡の発見など、教科書の記述と関連するニュースも多くあります。消費税のニュースを目にした際には、各時代の税の仕組みをまとめてみたり、時代ごとの違いを考えてみるなど、テーマごとの歴史を考えるヒントになります。

・意識的に字を書く機会を作り、丁寧に正確な字が書けるよう準備して下さい。

配点

201 (100点)

1 35点 **2** 35点 **3** 30点

202 (100点)

1 35点 **2** 35点 **3** 30点

204 (100点)

1 35点 **2** 35点 **3** 30点

205 (100点)

1 35点 **2** 35点 **3** 30点